

# 第 12 回定時総会報告

日 時：2013 年 5 月 26 日（日）14：00～16：00

会 場：西宮市市民交流センター2F ホール

## I. 開催報告

今総会における CAP センター・JAPAN 正会員数は 91(団体正会員 87、個人正会員 4)、定足数 46 のところ、表決権数は 79 (当日出席 38、表決委任 23、書面による出席 18) でした。当日は 55 人の方が参加されるなか、第 12 回定時総会が行われました。

議長には糸数貴子さん (NPO 法人おきなわ CAP センター/沖縄)、議事録署名人には、佐藤淳子さん (とっとり CAP/鳥取)、西永玉枝さん (NPO 法人あいち CAP プラス/愛知) が選任されました。

今回の運営にあたっては、複数名ご出席いただいた団体正会員から計 4 人 (奥井直美さん/CAP おかやま/岡山、為清淑子さん/CAP おかやま/岡山、脇千裕さん/CAP にしのみや/兵庫、藤井いづみさん/しまもと CAP/大阪) の方に、会場整理、表決カウントなどをお願いし、多くの皆さまのご協力によって総会運営を行うことができました。ありがとうございました。

当日は、すべての議案が承認され、2013 年度の事業が本格的にスタートいたしました。

お手元にある議案書の (案) の文字をお消してください。

以下に、総会当日の進行概要をご報告します。

### (1) 理事長挨拶 (挨拶概要)

「今日は 12 回目の定時総会を開催することができました。ありがとうございます。

私が理事長をお引き受けしてから、毎年出来る限りの各地の皆さん方のところに訪問してお話を伺ったりしたいと思っていました。ところが去年は個人的にも仕事上も忙しくて、なかなかそういう機会が取れなかったことが非常に大きな反省として残っています。

ただ、3 月に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで実施した「学生・専門学校生のための 子どもへの暴力防止のための基礎講座」を少しのぞかせていただきました。7 人ぐらいの参加者だったのですが、参加する学生さんたちは非常に熱心で、看護師であるとか、社会福祉関係であるとか、これから子どもと関わる仕事をしたい、そういった方々が参加されていました。このプログラムに触れて、これから新しい力になってくれれば良いと願っていますし、午前中の WAM (独立行政法人福祉医療機構) 助成事業報告等にもあったと思いますが、これからの人材を育成していくことは非常に大きな課題です。今年もぜひそういう形で熱心な取組みがあれば良いかと、そして参加者を増やしていければ良いかと考えています。

昨日から、日本小児科医学会「子どもの心の研修」というのが神戸でありまして、全国から小児科の先生が 270 名参加されて 3 日間研修されます。子どもの専門医の必修講座なのですが、CAP の話をと依頼されまして、医師・専門家の前で 1 時間ほどお話をしました。私の前に講演された方が



東京の監察医、法医学者で、深刻な死亡事件の解剖事例の報告を聞くうちに、自分自身のこれまでの経験が蘇ってきまして、私の担当の CAP の紹介は 1 時間のうち 40 分くらいで終えて、あとの 20 分は自分自身の児童養護施設での様々なこれまでの経験についてお話をしました。小児科医の先生方に聴いていただきたい、どれだけ子どもとその家族が苦しんでいるかということと、そしてそれの予防的な取り組みが大切だということを訴えてきました。

また昨年、資生堂社会福祉事業財団の研修で 2 週間、ドイツとイギリスに福祉関係施設の視察に行きました。ドイツは少子化という日本と同じような問題を抱えています。そういう中で国全体あげて、子どもと家族に優しい社会をつくろう、と法改正もして 1 歳からの公的な育児支援を全体として取り組んでいることを見せていただきました。

イギリスで非常に印象に残ったのは、児童福祉関係者、児童保護関係者の中で重要なキーワード、1 つは working together です。つまり協働、共に働く、共に動く。それはイギリスがかつて経験した様々な虐待死事件を検証して、そして 2004 年に策定したのが working together という言葉を中心とした理念で、いろいろなシステムの基本です。その部分を強調してどの分野に行っても必ず working together という言葉が出てくるのです。機関協働の重要さや各分野が情報共有をして虐待防止あるいは保護に取り組んでいくという考え方、これは非常にすばらしいと思いました。

もう一つ印象に残ったのは harm いわゆる傷つきという言葉です。significant harm、これは重大な傷という意味です、どういうことかということ、abuse（虐待）は非常に限定された概念で、それも含めてのすべての子ども達の significant harm に対応するというのです。例えば交通事故で子どもがなくなると、なぜその子どもが死んだのかという検証を徹底的にする訳です。それはその運転者の事故なのか道路の構造なのか、あるいはその歩道の環境なのか。そういうことをすべて含めた取り組みが概念としてあるということは、私たちがいろいろな意味で予防的な対策をとるということも非常に重要なことだと思いました。それらが印象に残っています。

私たちは子ども達に伝えなきゃいけないとか子どもを育てなきゃいけないという思いがありますが、じつは私たちが子どもに育てられている、そして社会の中で子どもと一緒に活かされているということを感じています。CAP は非常に素晴らしいプログラムです。私たちは子ども達に安心・自信・自由を伝えようと思っています。“子ども達のために”と思っているのですが、じつは子ども達が私たちのために生きる力を提供してくれるということを考えなければなりません。これからの CAP の活動がそういう意味で子ども達とともに、working together でいけばいいと思いますし、私たち理事・事務局は皆さんとともにこの CAP 活動を進めて行けたらと思っています。」

## （２）審議結果

### 【第 1 号議案 2012 年度特定非営利活動に係る事業報告および会計報告について】

議案書に沿って、事業報告は横山理事、収支決算報告は長谷事務局長が説明しました。

採決の結果、承認する 79 票で、第 1 号議案は承認されました。

内訳) 承認する (出席 39・書面表決 40)

### 【第 2 号議案 2013 年度特定非営利活動に係る事業計画案 および活動予算案について】

議案書に沿って、事業計画案は横山理事、収支予算案は長谷事務局長が説明し、その後、質疑応答が行われました。

採決の結果、承認する 79 票で、第 2 号議案は承認されました。

内訳) 承認する (出席 40・書面表決 39)



### 【第 3 号議案 定款の変更について】

議案書に沿って、定款の変更について島村理事より説明が行われました。

採決の結果、承認する 79 票で、第 3 号議案は承認されました。

内訳) 承認する (出席 39・書面表決 40)

### 【その他】

議長解任の後、側垣理事長からの一言の後、家本理事の閉会の挨拶が行われました。

閉会後は、長谷事務局長から 2013 年度事務局スタッフおよびトレーナーの紹介がありました。

## II. 当日の質疑応答の概要

### 【第 2 号議案 2013 年度特定非営利活動に係る事業計画案および活動予算案について】

質問 1 既に質問は出ており回答もされていますが、中学生暴力防止プログラムの養成講座について再確認をお願いします。

回答 1 まず、当法人はトレーニングセンターが 2 つとなって以来トレーナー養成に取り組み、中学生暴力防止プログラムのトレーナーについては著作権を持つ森田ゆりさんにトレーナー養成の要望を伝えていました。また、J-CAPTA との RTC 間協力会合では、トレーナー養成の際の連絡をお願いしていました。

その中で、2011 年 3 月に J-CAPTA において中学生暴力防止プログラムのトレーナー養成とあわせて、トレーナーズトレーナー (トレーナーを養成するトレーナー) が行われたとの連絡を受けました。そこで、J-CAPTA に当法人でのトレーナー養成のために必要な要件を問合せ、トレーナー養成のトレーニングの開催を要望していました。本年 2 月に 2014 年度以降の開催という連絡を受けたところです。そのため、トレーナー養成を行い、CCJ エリアでトレーニングを行なうことができる時期は、早くても 2015 年度と想定しています。

## III. ふりかえり

当日出席正会員に、アンケートをお願いしたところ、33 の団体正会員にご提出いただきました。ご協力をありがとうございます。いただいたご意見は、今後の総会運営に反映してまいります。なお、会員からのアンケート内容は、ホームページ「正会員のページ」に UP しておりますので、併せてお読みください。以下に、事務局のふりかえりをご報告します。

### 〈事前〉

**議案書等の作成・発送** 2012 年度の事業報告書は、読み手の皆さんのわかりやすさをこころがけ、写真を多用し、リアル感を出せるようにしました。

### 〈総会当日〉

**運営** 今回も、ボランティアの方々に支えられ、スムーズに進めることができました。

**表決** 書面表決が議案によって委任先が違っていたために、票数の内訳が議案で異なりました。当日参加者への説明が遅れ、ご不安になられた方がいたので、事前に説明しておくべき事柄でした。

### 〈その他〉

前日のワークショップ、当日午前中の報告会、午後の総会と 2 日間びっしりのスケジュールで、ご参加の皆さんは大変だったと思いますが、グループ間の交流ができたという点ではとても貴重な 2 日間になったと思います。

#### IV. 語ろう！見つけよう！社会を変える CAP 活動のカタチ -CAP 未来プロジェクト 100 人ワークショップ-

総会前日（5 月 25 日）に、CAP 未来プロジェクトとして私たちの大切なスローガンである「安心・自信・自由」を様々な場所、場面、時間で活用が広がっていくように、社会を変えていくための CAP 活動のカタチを考え、共に語り合い、発見するワークショップを実施し、CAP スペシャリスト、理事を含め 36 人の方にご参加いただきました。その中で、2012 年度に取り組んだ Panasonic 組織基盤強化で見えてきた未来とそのためアクションについても情報共有していきます。このワークショップの報告はホームページ「正会員のページ」に UP しておりますので、そちらをご覧ください。



はじめに自己紹介や本日の期待を語ったり・・・終始和やかな雰囲気です。



気付いた事、他の人の話を聞いて考えた事、なんでも書き込んでいきます。

#### V. WAM 事業報告会

総会前の 9：30～12：30、正会員の皆さん、理事を含め 46 人の方が参加されました。事務局の重松が、2012 年度に WAM（独立行政法人福祉医療機構）から助成を受けて行った事業の報告を行いました。また、2012 年度の教職員ワークショップの取り組みについて情報共有し、これからの教職員ワークショップの展開について考えました。



参加されたグループの方は北は埼玉から南は沖縄まで。全国のグループの方とお話できる貴重な機会です。



グループワーク中。壁面には前日 25 日のワークショップの成果が掲示されています。

この取り組みについては、ぜひ正会員の皆さまと共有し、地域での CAP 活動にご活用いただきたく、当日配布した資料を郵送いたします。

子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない社会をめざすために、皆さまとともに考え、今年度も歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

以上